

令和5年 3月30日	<b>農作物病害虫発生予報</b> <b>4月</b>	山口県病害虫防除所 山口県農林総合技術センター
---------------	--------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病害虫】	2
	【その他の病害虫】	12
III	参考(予報の見方、気象予報)	13

I 予報の概要

作物名	病害虫名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	平年並	やや少	少
	そうか病	やや多	やや多	多
ナシ	黒斑病	平年並	やや少	少
果樹全般 (モモ、ウメ)	カメムシ類	平年並	平年並	前年並
タマネギ	べと病	やや多	やや多	少
	白色疫病	平年並	平年並	前年並
イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多	多
	アブラムシ類	やや多	やや多	多
	ハダニ類	やや少	少	少
	アザミウマ類	<b>多</b>	<b>多</b>	<b>多</b>

お 問 い 合 わ せ 先

<b>【令和5年3月31日まで】</b>	<b>【令和5年4月1日以降】</b>
TEL 083-927-0211 (代表)	0835-28-1211 (代表)
FAX 083-927-0214	0835-38-4115
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp	

## II 予報

### 【主要病害虫】

#### カンキツ

#### 1 かいよう病

##### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	少	開花前

##### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%（平年14.6%）、発病葉率0.2%（平年0.9%）、発病度0.0（平年0.3）、発病葉枝率0.7%（平年1.3%）で平年に比べやや少なかった（－）

イ 気象予報では、4月の降水量はほぼ平年並み（±）。

##### (3) 防除対策

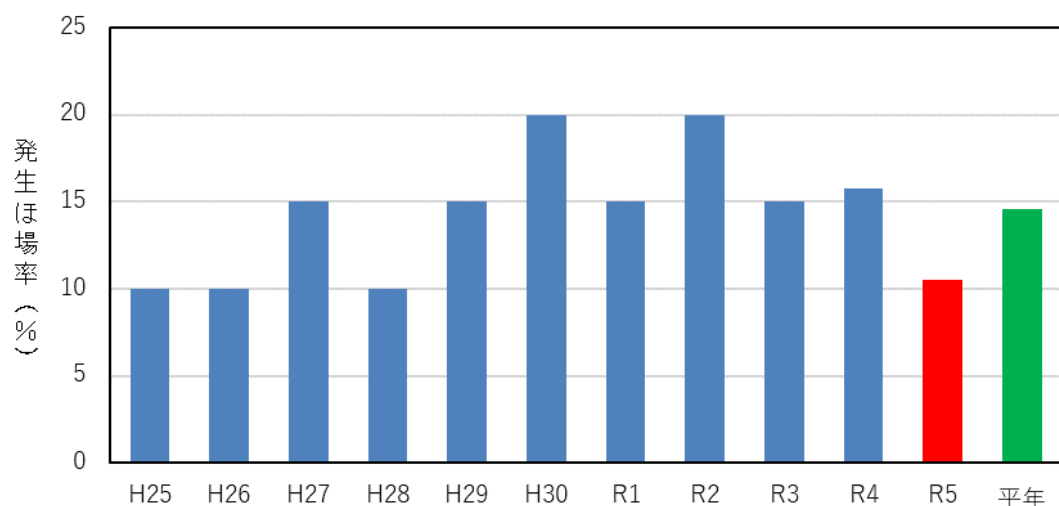
##### <耕種的防除>

ア 伝染源となる夏秋梢等の不要な枝を除去する。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、強風による枝葉の損傷を防ぐ。

##### <防除のポイント>

かいよう病にかかりやすい品種（南津海、甘夏、伊予柑等）や越冬病斑が認められる園では、発芽前に無機銅剤（I C ボルドー66D、コサイド3000、Z ボルドー等）を必ず散布する。



カンキツかいよう病の発生ほ場率 (3月下旬、越冬病斑調査)

## 2 そうか病

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発芽始め

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%（平年2.5%）、発病葉率0.1%（平年0.1%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では、4月の降水量はほぼ平年並み（±）。

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除>

伝染源となる病斑のある葉や枝を除去する。

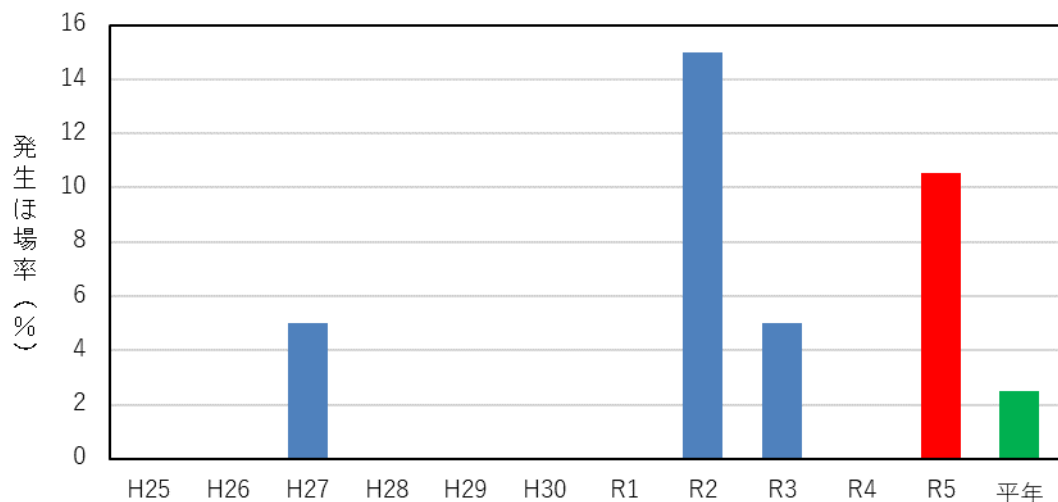
#### <防除のポイント>

ア 病斑が認められるほ場では、必ず薬剤防除を実施する。

イ 薬剤防除は新梢が1cmの頃に行うと効果が高い。

ウ 一部のほ場では、トップジンM剤、ベンレート剤（殺菌剤コード1）等の耐性菌が発生しているため、本剤を使用しても効果が認められない場合は、使用を中止し、ストロビー剤（殺菌剤コード11）、フロンサイド剤（殺菌剤コード29）、デラン剤（殺菌剤コードM9）等を使用する。

エ 減農薬栽培ほ場では、多発することがあるので、発生状況をよく確認する。



カンキツそうか病の発生ほ場率 (3月下旬、越冬病斑調査)

ナ シ

1 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りんぼう脱落期</li> <li>・開花直前</li> <li>・3分咲頃</li> <li>・人工交配終了後</li> <li>・落花後</li> </ul>

(2) 予報の根拠

- ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率12.5%(平年28.0%)、発病枝率0.3%(平年0.3%)、発病芽率0.1%(平年0.1%)で平年に比べやや少なかった(－)。
- イ 気象予報では4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(+)。

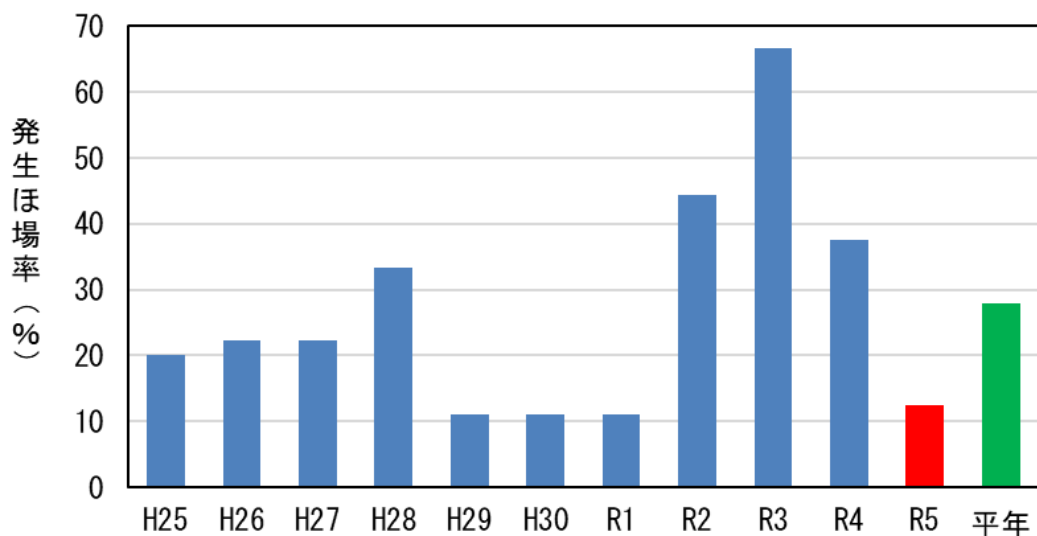
(3) 防除対策

<耕種的防除等>

萌芽期から開花までに、伝染源となる枝病斑の封じ込めと病芽の切り取りを徹底し、伝染源を減らす。

<防除のポイント>

- ア 開花期から小袋掛けの終わる4月中旬から5月中旬までが特に重要な薬剤防除時期である。
- イ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。なお、県内全域でポリオキシシン剤(殺菌剤コード19)の耐性菌が発生しているため、銅剤と混用する。



ナシ黒斑病の発生ほ場率 (3月下旬)

果樹全般（モモ、ウメ）

1 カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	園内への飛来確認時

(2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの隙間トラップによる越冬量調査(10か所)では、1トラップ当たり22.0頭(平年21.7頭)で平年並みであった(±)。

イ 果樹カメムシ類の越冬量と相関の高い前年のスギ、ヒノキの花粉飛散量は平年並みであった(±)。

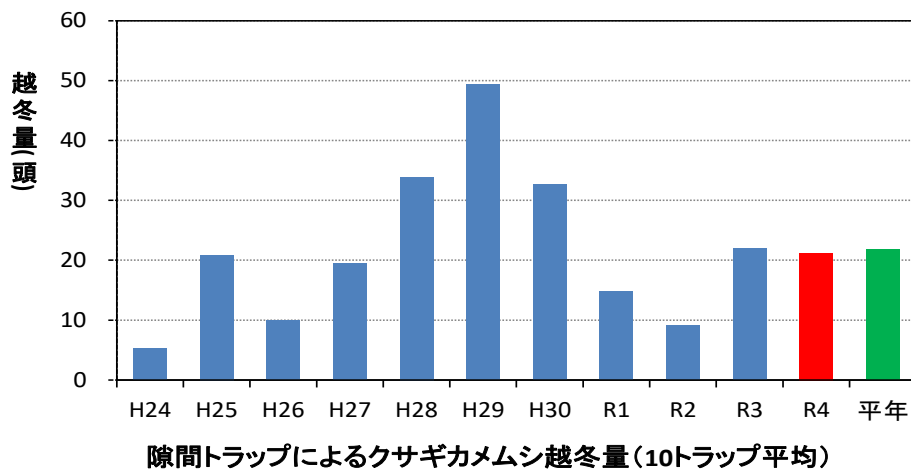
(3) 防除対策

<耕種的防除等>

常発園では、ネット(網目4mm以下)で園全体を覆い侵入を防ぐ。

<防除判断>

モモ、ウメなどで被害を受けることの多い園では、気温の高い日に園内を観察し、飛来を確認したら防除する。



# タマネギ

## 1 ベと病

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	発生前～発病初期

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率7.1%(平年5.7%)、発病株率0.6%(平年0.4%)、1 a 当たり調査では、越年り病株(一次感染株)の発生ほ場率17.9%(平年11.8%)、発病株数0.4(平年0.7)で平年に比べやや多かった(+)

イ 気象予報では、4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(+)

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除等>

ア ほ場をよく観察し、越年り病株(一次感染株)を見つけた場合は、直ちに抜き取り、ポリ袋等に密封してほ場外に持ち出し、焼却や土中に埋めるなど適正に処分する。

イ ほ場の排水を良好にする。

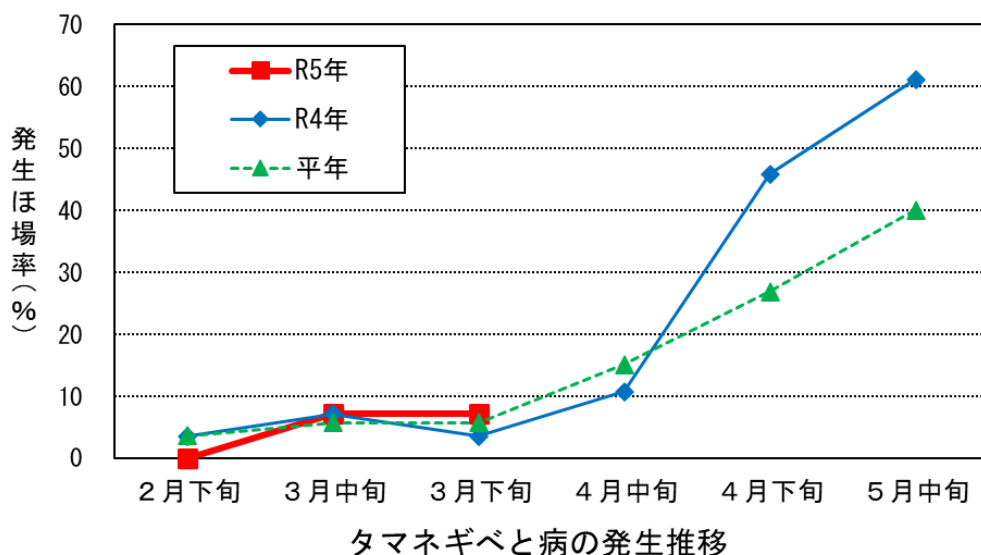
#### <防除のポイント>

ア ジマンダイセン剤(殺菌剤コードM3)、フロンスайд剤(殺菌剤コード29)等の保護殺菌剤で、定期的な予防防除を実施する。

イ 越年り病株の抜き取り処分後は、治療効果のある薬剤(殺菌剤コード4、11、40を含む薬剤)等で直ちに防除を行う。

ウ 薬剤耐性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

※ 本病に登録のある薬剤は混合剤が多いことから、一般名の成分及び殺菌剤コードをよく確認し、使用回数に注意する。



## 2 白色疫病

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病初期

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年5.7%)、発病株率0%(平年0.4%)、1a当たり調査では、発生ほ場率0%(平年11.8%)、発病株数0(平年4.3)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、4月の降水量はほぼ平年並み(±)。

### (3) 防除対策

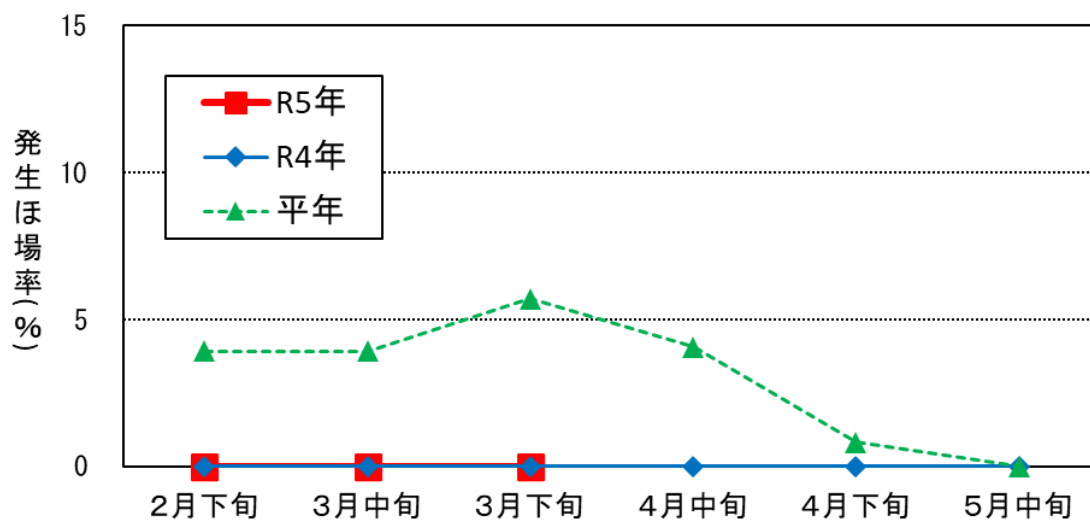
#### <耕種的防除等>

ほ場の排水を良好にする。

#### <防除のポイント>

ア ほ場の見回りを行い、発生を確認した場合は、治療効果がある薬剤(殺菌剤コード4、40、43を含む薬剤)で直ちに防除を行う。

イ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、系統の異なる薬剤で追加防除を行う。



タマネギ白色疫病の発生推移

# イチゴ

## 1 うどんこ病

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発病前または発病初期

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.0%（平年9.1%）、発病株率3.2%（平年1.3%）、発病葉率0.2%（平年0.5%）、発病果率0.5%（平年0.2%）で平年に比べやや多かった（+）。

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除等>

被害果や被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し適正に処分する。

#### <防除のポイント>

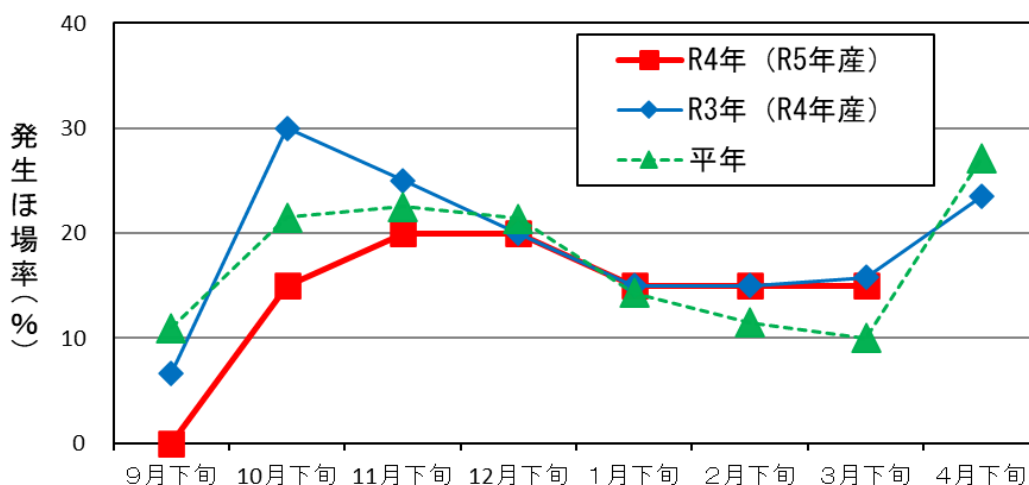
ア 本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ 予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去して丁寧に散布する。

ウ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、約7日おきに1～2回薬剤を追加散布する。

エ トリフミン剤（殺菌剤コード3）、アミスター剤（殺菌剤コード11）は耐性菌が出現しているため、防除効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。

オ 薬剤耐性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移



## 2 アブラムシ類

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発生初期

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.0%(平年20.6%)、寄生株率2.4%(平年1.5%)で平年よりやや多かった(+)。

イ 気象予報では、4月の気温は高い(+)

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除等>

下葉の葉かきをこまめに行う。

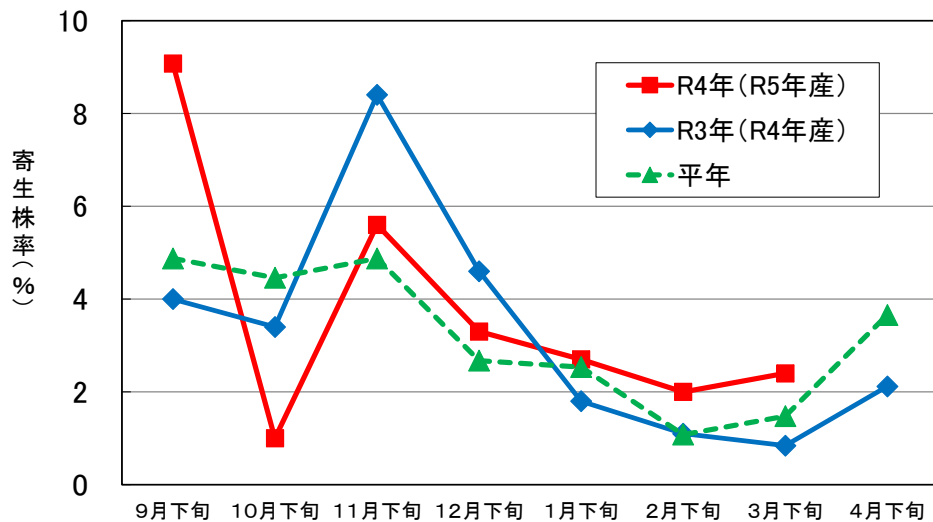
#### <防除のポイント>

ア 薬剤散布時は、葉裏、花房や新芽等までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ウ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf> )



イチゴ アブラムシ類の発生推移

## 3 ハダニ類

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率25.0%(平成43.1%)、寄生株率4.2%(平成15.6%)で平年に比べ少なかった(－)。

イ 気象予報では、4月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

下葉の葉かきをこまめに行う。

<防除のポイント>

ア 薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

イ 気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、7～10日間隔で散布する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。

エ 天敵(ミヤコカブリダニ等)を放飼している場合は次のことに注意して使用する。

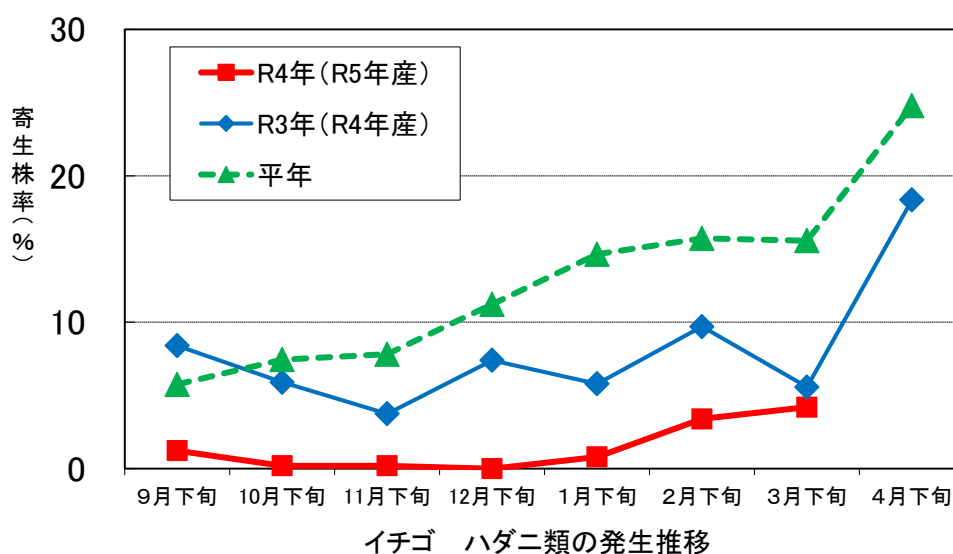
(ア) 天敵に影響の少ない薬剤(マイトコーネ剤、ダニコング剤、スターマイト剤等)を使用する。

(イ) 硫黄のくん煙は1日2時間程度とする。

※ 放飼方法、放飼後の管理についてはメーカーホームページを参照

オ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf> )



#### 4 アザミウマ類

令和5年3月30日付け令和4年度農作物病虫害発生予察注意報第6号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

##### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	発生初期

##### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率85.0%(平年30.7%)、寄生花率14.4%(平年3.1%)で平年に比べ多かった(+)。

イ 気象予報では、4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(+)。

##### (3) 防除対策

###### <防除判断>

こまめには場を見回り、ルーペ等を用いるなどして本虫の発生状況をよく観察する。花に息を吹きかけると本虫が動き、確認しやすくなる。発生が認められた場合には、直ちに薬剤を散布する。

###### <防除のポイント>

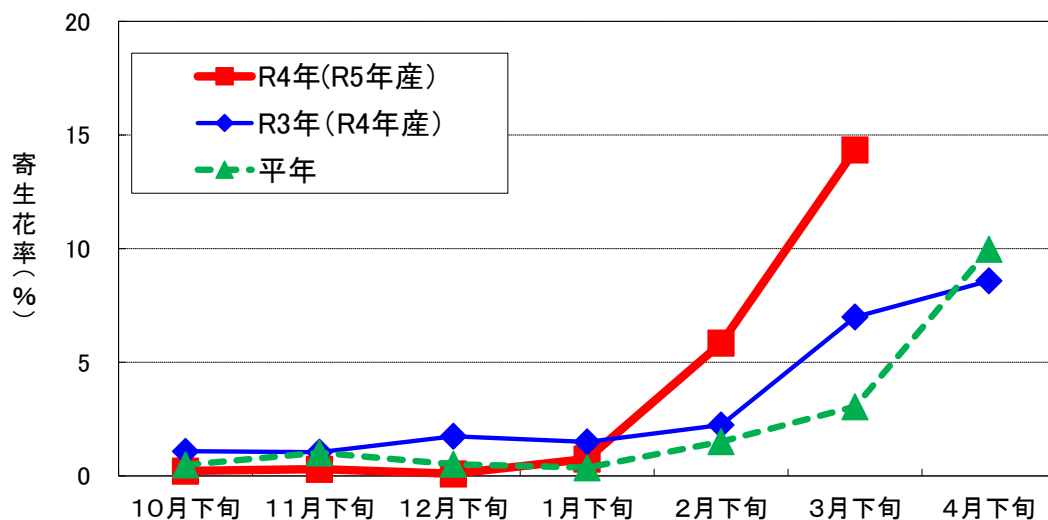
ア 多発生(寄生花率10%以上)の場合には、他系統の薬剤を用いて複数回防除を行う。薬剤散布後には必ず防除効果を確認する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないために薬剤コードを考慮し、同一系統薬剤の連用は避ける。

ウ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチへの安全日数を考慮する。

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/123673.pdf> )

エ 天敵を放飼している場合には、天敵に影響の少ない剤を選択する。ただし、アザミウマ類の発生が多い場合には、本虫の防除を優先する。



イチゴ アザミウマ類の発生推移

### 【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予 想 発生量	現 況		発生ほ場率		備 考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
タマネギ	腐敗病	平年並	平年並	前年並	3.6	3.6	
	軟腐病	平年並	平年並	前年並	0	0	
	ボトリチス属菌 による葉枯症 (白斑葉枯病)	平年並	平年並	前年並	0	0.7	
イチゴ	コナジラミ類	やや少	少	少	5.0	34.0	

### Ⅲ 参考

#### 1 予報の見方

##### (1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

###### ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

###### イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

##### (2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

注：ウンカ類は1971年以降、コブノメイガは1985年以降の初確認日と比較（半旬毎）

##### (3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

#### 2 気象予報

##### (1) 概要

###### 1 か月気象予報（3月23日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	10	20	70
降 水 量	30	40	30
日照時間	30	40	30

###### 週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	10	20	70
2 週 目	10	20	70
3～4 週目	20	40	40